

少人数教育の利点

奈良教育大学の特色の一番トップにあげられる少人数教育。先生と学生の距離が近く、充実した大学生活が送れるというその実際のところはどうか。今回、柳澤学長と学生の対談という初めての試みで語っていただく機会を得た。

参加した学生は4人。学校教育教員養成課程言語・社会コース4回生の土井好美さん、学校教育教員養成課程教育・発達基礎コース3回生の北川雄介さん、学校教育教員養成課程身体・表現コース1回生の井門まなみさん、そして日本語・日本文化研修留学生のトマシュ・マリノフスキさん。柳澤学長との対談ということで少々緊張気味だった彼らも、次第に和やかな雰囲気に入れ込み、感じたままの率直な感想を話してくれた。

▼少人数教育を経験して

柳澤学長 少人数教育は、小規模にしかできない特徴がたくさん生かせるんですね。例えば、先生が学生諸君と非常に近いところにいる。無理やり先生方が学生に近づこうとしなくてもいい、家族的な雰囲気や育まれていたりします。また、同じように学生同士の距離もやっぱり相当近いんだらうなと思います。率直になんでも疑問に思ったことを尋ねてみたり、あるいは一緒にやろうと提案してみたり。

あと、具体的なお話すると、一年生のときからゼミをやっています。これは本学がもう平成7年ぐらいですから、足かけ10年ぐ

らい。他の大学に先駆けて少人数教育が大事なんだと、かつ私たちの規模の大学ならできるんだということで丁寧にやってきました。皆さんは、一年生のときには基礎ゼミがあり—あれはちょっと規模が大きいですけれども—ディスカッションするときには小さなグループになるので、新入生が始めて入ってきて右も左も分からないときに、みんなこんなことを考えているのかな…という最初のつかかりに非常にいいんだらうな、と思っています。

それから、ただ仲間内でワイワイというようになぞういう意味での少人数ではなしに、そのなかでこんなことをみんなまとめていこう、あ

るいはプレゼンテーション能力って呼んでますけれども、人の前で発表するときに、こうやってまとめてこうやって成果を発表して、それについていろんな人の意見も聞けるということ。その流れをやはり少人数教育というところで、なおかつ1年生や2年生の間にはしっかり身につけてほしい、というのが少人数教育の前半の部分です。また、1年生だけが少人数教育かというところではなく、おそらくみんな経験してると思うんですが、2年生や3年生になってもそ



柳澤学長の話に聞き入る土井さん、トマシュさん（画面左より）



柳澤学長、北川さん、井門さん（画面左より）

の形は基本的には変わっていないと思います。そして、最終的には卒業生の多くが「大学時代を振り返ってどう思いますか？」というアンケートに対して「授業の満足度」「大学の雰囲気」「少人数教育の良いところ」で良い評価をあげてくれています。そういったところで、非常に良い教育ができているんだらうな...とっています。進行 では、実際に4回生に入られて、卒論に取り組まれていると思うんですけど...。土井さん、少人数を体験されてみてどうでしょう？

土井 やはり、どんどん学年があがるにつれて、私は専門が国語なんですけれど、ほんとに10人ぐらいの授業で、先生にわからないことがあつたらその場で質問できたり、授業が終わってからも軽い気持ちで物怖じせず聞きにいらしたりします。あと、今はゼミに配属されているんですけど、研究室も一人の先生にだいたい3人までくらいですごく充実していて、指導を一人あたりにかなりかけていただけるし、本当にこういうところが少人数の小さい大学としての魅力的なところだと思っています。

進行 3回生の北林さんはどうですか？

北川 そうですね、少人数の大学といっても、やっぱり高校までと比べたら規模は大きくなっていると...。1回生、2回生、3回生と上がっていくにつれて受ける専攻とかがちょっとずつ決まってくるんで、基礎ゼミでも30人や40人いたりする授業があります。でも、2回生や3回生になったらそういう人数で受ける方が少なくなってきたり、進みたい方向に行くにつれて少人数になっていくので、先生との仲も深くなりやすいです。受けている内容の質問であったり、自分が考えていることなどを先生に訪ねたり話したりしやすいですし、その授業の内容は年を経ることに充実してきていると思います。

▼短い間で感じたいと

進行 では、いきなり1回生で感想というのも難しいかも知れないけれど、井門さんはどういうところに魅力を感じて奈良教育大学に？

井門 秋の文化祭に一回見学に来させてもらっただけですよ。そのときの雰囲気ですごくよくて、大学中のみんなが仲が良い感じだったんです。

部活単位というより、大学全体がすごく良い雰囲気を持っていて、ここはいいところだな...って思いました。(笑)

大学に入ってからも、先輩たちとの距離が近くて、今でもいろんな先輩に声をかけてもらって、すごく嬉しいですね。

進行 トマシユさんは、留学生として奈良教育大学を選ばれたわけですが、少人数教育の良さを感じられたことはありますか？

トマシユ 前に考古学を一年間勉強したことがあって、そこは非常に人数が多く、半年経ってもほとんど誰も知らないことがありました。そして、ここに来てまだ半年ですが、みんなと知り合えたり、分からないところがあればすぐに先生と相談できたりするので、少人数教育はとても良いことだと思います。また、授業には日本の学生も参加することがあるので、それも文化交流になって楽しいです。もし人数が多ければ、留学生と日本人がみんなそれぞれグループになっちゃうんではないかと思っています。それは、とても大切だと思います。

▼学生に対する想い

柳澤学長 大学の小規模なところと関連するとは思いますが、本学の先生方なんですけれどもね、学生の教育にやはり重きを置いている。教育に熱心であったり、学生のことを大事に思っている先生方が多いんだろうと思います。それは奈良教育大学に勤める先生方の一つの特徴なんだろうな...と私は感じているところです。